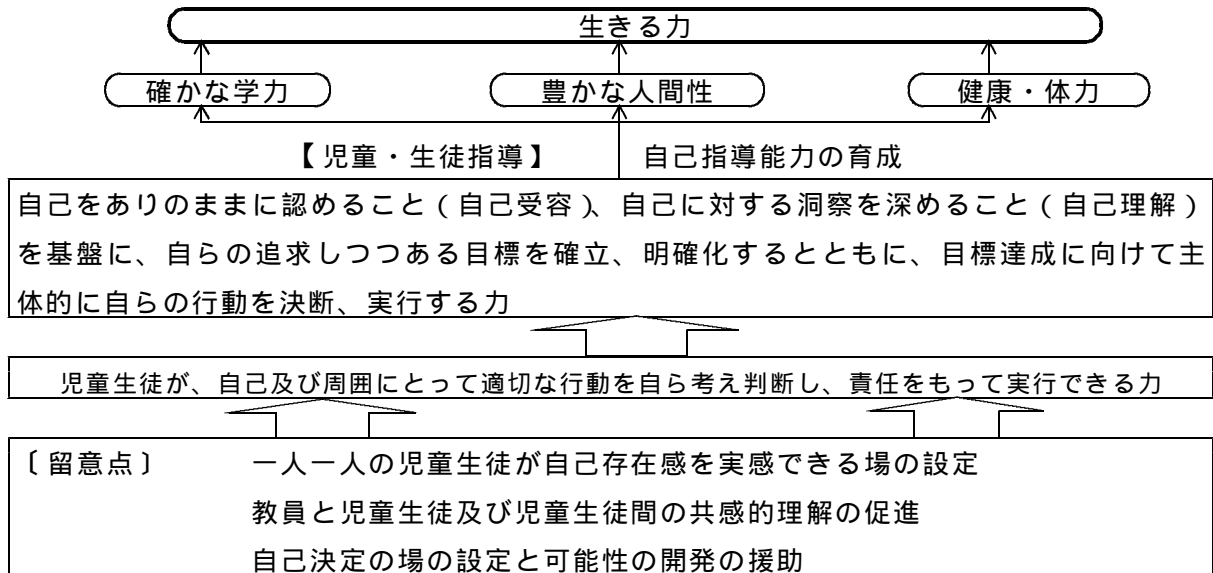


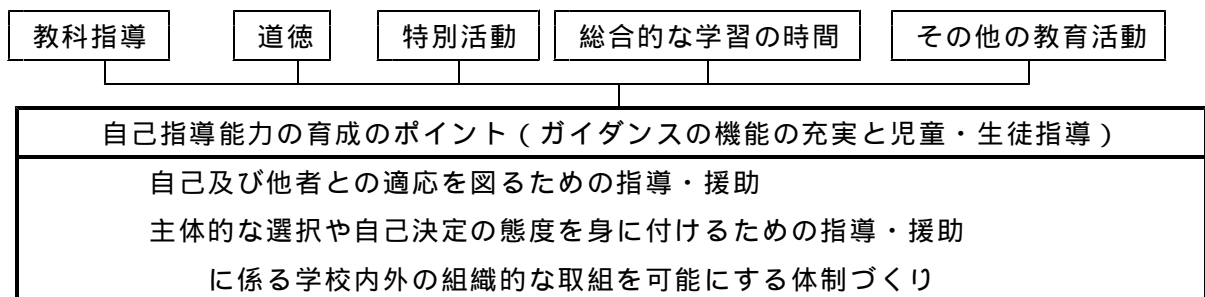
Q 4：自己指導能力の育成が話題になっているが、どのような場面で自己指導能力を育成していけばよいか。

A： 児童・生徒指導においては、社会や集団の変化に個として主体的に対応できる能力、つまり変動していく社会において、将来自立した生き方に必要な資質や能力を育成していくことを目指している。



社会や生活環境が変化し、将来への不透明感が増し、価値観が多様化している昨今においては、児童生徒が自己の生き方に向き合い、自己実現を達成するために、社会や集団の変化に対応しながら主体的に自己の判断、責任において自らの行動を決定していくことが重要になってくる。

児童生徒の自己指導能力は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他の教育活動を通じて育成していかなければならない。特に学級集団を指導する学級活動は育成の重要な場の一つとなるであろう。



- 【具体的な指導場面におけるポイント】
- ・教える、支える、見守ることのバランス      児童生徒の自己決定と主体的な行動
  - ・多面的な児童生徒理解と評価、承認      児童生徒の自己肯定感、自尊感情
  - ・小さな成功体験の蓄積と自己理解の深化      児童生徒の積極性や意欲
  - ・学級などの集団づくりと体験的な活動      役割意識や規範意識、責任感、耐性等